

令和4年度 学校経営計画表

1 学校の現況

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|-----|------------|-----|------|-----|-------|-----|----------------------|---|------|------|--------|---|---|----|
| 学校番号 | 6 | 学校名 | 茨城県立多賀高等学校 | | | | 課程 | 全日制 | | | | 学校長名 | 鈴木 好美 | | | |
| 教頭名 | 鈴木 圭一 | | | | | | | | 事務(室)長名 | | | | 大川 由紀 | | | |
| 教職員数 | 教諭 | 40 | 養護教諭 | 1 | 常勤講師 | 3 | 非常勤講師 | 6 | 実習教諭 実習講師 実習助手 | 1 | 事務職員 | 3 | 技術職員等 | 3 | 計 | 60 |
| 生徒数 | 小学科 | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 合計 | | 合計クラス数 | | | |
| | | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | | | |
| | 普通科 | | 127 | 112 | 127 | 111 | 113 | 117 | | | 367 | 340 | 18 | | | |

2 目指す学校像

| |
|---|
| (1)校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 |
| (2)授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 |
| (3)特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「シチズンシップ」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校 |

3 三つの方針(スクールポリシー)

| | |
|-------------------------------------|--|
| 「育成を目指す資質能力に関する方針」 グラデュエーションポリシー | よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培い、社会に貢献できる人材を育成 |
| 「教育課程の編成及び実施に関する方針」 カリキュラムポリシー | 新学習指導要領と大学入学共通テストに対応できる学習・進路体制の構築と多様な進路ニーズに対応するカリキュラム編成の実施 |
| 「入学者の受入れに関する方針」 アドミッションポリシー | 学校づくりの主役として日々努力し、自己有用感・自己肯定感を高めることができる生徒 学習意欲を持ち、学校教育活動全体をを通し、スポーツ・文化・芸術を体感し楽しもうとする生徒 |

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

| 項目 | 現状分析 | | 課題 |
|-------|--|---|---|
| | 取組の実績 | 成果 | |
| 学習進路 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題(教科・Classi・スタディサプリ)利用による家庭学習時間の拡大 ○計画的な進路行事の設定 ○ICTを活用した授業実践による主体的な学習態度の育成 ○生徒面談の定期的な実施と模擬面接、検定試験の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○技能検定合格者【準2級以上】の増加(R2→R3) (実用英語59→106人、数学69→42人、漢字45→40人) ○四大進学者のうち「一般」受験者率(R2→R3) (17.1→53.6%) ・国公立大「一般」合格者(1→0名) ・進路希望実現率(97→97%) | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間の増加と基礎学力の向上と定着 ○主体的な学習態度の構築と大学入試共通テストへの対応 ○進路指導体制の体系化と定着 ○ICTを活用した効果的な学習体制の構築 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣の確立と生徒の状況に沿った指導の徹底(教育相談) ○教育相談体制の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○皆勤率増、遅刻者の減少 ○生徒指導(交通関係含む)の指導件数減 | <ul style="list-style-type: none"> ○よりよい人間関係の構築(不登校等への対応) ○SNS等利用モラルの一層の向上 |
| 特別活動 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒会委員会、委員長会議の定例開催 ○自己達成感を育む学校行事の実践 ○LHR等でのキャリア教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○自己有用感の向上 ○学校やHRへの帰属意識が向上 ○自己目標に沿った進路選択 | <ul style="list-style-type: none"> ○より一層の主体的行事運営 ○感染症予防対策に沿った行事運営 ○キャリアパスポートの効果的利用 |
| 働き方改革 | <ul style="list-style-type: none"> ○きんむくんによる勤務時間管理の徹底 ○部活動休業日の設定 | <ul style="list-style-type: none"> ○管理職による面談の実施 ○週1回の部活動休養日確保 | <ul style="list-style-type: none"> ○超過勤務時間の削減 ○部活動指導の分担 |

5 中期的目標

| |
|---|
| (1)地域から信頼され選ばれ続ける持続可能な学校づくりに全校を挙げて組織的に取り組むことにより、中卒者激減に対応する。 |
| (2)新学習指導要領・大学入試共通テストに対応できる学習進路指導体制を構築することにより、増加する大学進学ニーズに応える。 |
| (3)生徒に学校づくりの主役として自治的な体験を増加させることにより、主体的な態度を育み、自己有用感・自己肯定感を高める。 |
| (4)心身の発達段階の理解に根差した心の教育を推進することとおし、思い遣りの心や人権意識に満ちた学校風土を醸成する。 |
| (5)学校における働き方改革を推進し、よりよいパフォーマンスを発揮するための適切な休養を含めた勤務体制の構築に努める。 |

6 本年度の重点目標

| 重点項目 | 重点目標 |
|--|---|
| (1)新学習指導要領の学習評価に即した授業体制による学力の向上、並びに主体的な学習体制の構築 | ①ICTを活用した授業を効果的に実践し、主体的に学ぶ姿勢を育み、思考力・判断力・表現力を育む授業の深化を図るとともに、学習課題を積極的に提供し、家庭学習習慣を定着させる。 |
| | ②自己分析や大学・職業研究、課外や模試等をより体系的に実施し、希望進路の着実な実現につなげる。 |
| (2)自治的能力と自律心の育成 | ③HRや委員会における企画立案の取組等を積極的に設け、役割意識や責任感、能動的な規範意識を醸成する。 |
| | ④協働して取り組む姿勢を培い、自己有用感を高め、目標実現に向けて努力する態度を養うよう指導する。 |
| (3)切磋琢磨の奨励と心身のケア | ⑤保護者との密な連携やスクールカウンセラーの活用等により、生徒の心理的課題に早期に対応する。 |
| | ⑥希望進路実現に備え、学力の向上を目指し、家庭学習時間の確保ができるよう指導する。 |
| | ⑦適性に合った進路実現に向けて、キャリアパスポートを利用した計画的なキャリア教育を実施する。 |
| (4)働き方改革の実施 | ⑧学校閉庁日の設定等により勤務時間の適正化に努めるとともに、行事、課外活動を含む業務の精選、適正化を進める。月ごとの超過勤務時間を45時間以内、年間360時間以内となるよう、休暇の取得促進や勤務の割り振り等適正に実施する。 |